「風と土の家」にて”移住”を研究中

合同会社虎捕の郷が運営する交流・宿泊施設「風と土の家」に7月から滞在し管理を手伝う高橋由実さんは、東京大学大学院農学生命科学研究科の2年生。村をフィールドに、移住をした人がそれぞれ決断に至ったプロセスなどを研究。「次に続く人の背中を押せるような研究に」と思いを込めて進めています。また、来春からは出身の白河市で就職の予定。「卒業後も村と関わり、地域の魅力に触れながら、行く末を見届けたいと願っています」。

この夏「風と土の家」は、村で活動する大学生や里帰りした家族、村内イベントの関係者など多くの人が訪れ、にぎわっていたそう。

川崎弘子さん美術展にて連続受賞

川崎弘子さん（深谷）の工芸作品「葛織りのバッグ」が、『第32回福島県シルバー美術展』彫刻・工芸の部で福島市長賞を受賞しました。「自分が使いたいものをつくっているだけなので」と謙遜する川崎さんですが、草木染めと織物の作品づくりを続けていて、昨年も同展で福島民友新聞社長賞を受賞しています。9月7日から11日にとうほう・みんなの文化センター（福島市）で開かれた展覧会では多くの人が足を止め、美しい風合いのバッグを観賞していました。

産品の魅力を発信「あぶくまフェア」

9月8日からの3日間、コラッセふくしま（福島市）で開催された『あぶくまフェア』に村の事業者が出店し、魅力あふれる産品を販売しました。この催しは福島県阿武隈地域振興協議会の主催。阿武隈エリアのさまざまな市町村から出店がありました。ラインアップは日替わりで、村からは「までい工房美彩恋人」「図図倉庫」「村カフェ753」「ニコニコ菅野農園」「工房マートル」などが出店。花農家の花のブーケも販売され、村の魅力も伝えていました。

13区営農組合　デントコーンの収穫

9月中旬、13区営農組合（細川强代表／上飯樋）の圃場で、牛の餌となるデントコーンの収穫作業が行われました。背丈以上に大きく育ったデントコーンは、専用の機械でダイナミックに刈り取ります。組合員の皆さんが手際よく連携し、刈り取りはまたたく間に進んでいきます。ギッシリ実った実の部分だけでなく茎や葉も一緒に裁断されたデントコーンは集積所に運ばれ、ラッピングの機械で大量のホールクロップサイレージに加工されました。

佐須行政区で交流イベント

9月17日、佐須行政区で「地域みがきあげ交流事業」が開催されました。平成27年以来の地域イベントということもあり、50人を超える住民が集まり、久々の再会に会話が弾んでいました。

班対抗グラウンドゴルフでは楽しそうな笑い声が響きわたり、炊き出し訓練を兼ねた交流会では、参加者同士が協力し合い準備や調理を行いました。さらには創作太鼓「虎捕太鼓」も披露され、懐かしの音色に感動が広がりました。

図図倉庫で蚤の市「ずっとまーけっと」

9月23日、図図倉庫で、蚤の市イベント『ずっとまーけっと』が開かれました。小原健太さん（上飯樋）が営む目黒草花園、図図倉庫を運営する合同会社MARBLiNGの共催です。古道具や衣類などを販売するフリーマーケットの他、村内事業者が、ホットサンドやスープ、カレーの提供、産品の展示販売などで出店。ワークショップも多世代の人気を集めました。会場には村外からも多くの方が訪れて、つながり合うイベントの雰囲気をゆったりと楽しんでいました。

福島駅前軽トラ市（9月24日）などで販売をスタート

飯舘の野菜がピクルスに

株式会社リファー（白石）が自社で栽培する野菜などを使った新商品を発売しました。商品名は「いいたての、」。豊かな自然に育まれた“いいたての、”野菜が瓶詰めのピクルスになりました。ミニトマト、ビーツ、赤タマネギ、カボチャ、インゲンなど多彩なラインアップで、料理の付け合わせやおつまみ、サラダのアクセントにもなりそうです。村内では10月8日にいいたて村の道の駅までい館で開催される『までいなマルシェ』にて販売されます。

佐須地区に満開のカラー

9月中旬、菅野永徳さん（佐須）宅の庭に、赤と黄色のカラーが満開に咲いていました。地区の人達が「きれいだよね」「こんなに咲くのは珍しいよね」と自慢げに話し見惚れるほど。カラーは寒さに弱いですが、4年前に苗を植えてから毎年管理を続け、今年は例年より少し遅いものの、これまでで1番立派に咲いたと言います。県道沿いから見える位置に咲き誇るカラーが、佐須地区の中心で人々を見守っているようでした。